

社会 第6学年 世界のなかの日本とわたしたち 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。(3)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：教育・医療・農業などの具体例を選び、現地の人々の課題、国際機関や日本の協力、続けるための条件を図にする。支援する側だけでなく受け取る側や現地の担い手の資料を比べる。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。(3)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：日本が一方的に助けるという説明には現地の知恵や共同作業、支援後の運営を示す。世界の全課題を列挙するのではなく一つの具体例から役割を考える 予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。(3)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。取組を続ける条件を比較する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：苦境にある子どもの画像を衝撃を与える目的で使わない。国や人々への優劣表現を避け、寄付や外部連絡は授業内で実行しない 実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、(3)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：教育・医療・農業などの具体例を選び、現地の人々の課題、国際機関や日本の協力、続けるための条件を図にする。支援する側だけでなく受け取る側や現地の担い手の資料を比べる。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全6時間は日本文教出版の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「世界の課題を解決するため、日本は他の国や機関とどう協力しているだろうか」について最初の考え、根拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。世界の人々と共に生きる考えを述べる活動で根拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

